



学校教育目標

自立 ～責任ある行動をとる力～
貢献 ～対立やジレンマを調停する力～
創造 ～新しい価値を創造する力～

何ができるようになるか〈学校教育の基本〉

SEISHO PRIDE

～生徒一人一人が**主語**となって～

【自立】さわやかな挨拶 ・ 自ら進んで学習
 【貢献】活力ある生徒会活動 ・ いじめの根絶
 【創造】響き合う合唱 ・ 成長し合える仲間

自主性 → 主体性の育成

教育の効果の最大化
 ⇒ 「自主性・主体性」を核としたカリマネによる教育課程の改善と実施

生徒の発達をどのように支援するか

- ・ 生徒と向き合う時間を確保し、多面的・多角的な生徒理解の共有
- ・ 組織的な支援体制の確立（「学びの支援委員会」でのアセスメント、通級指導の充実、教育支援員の効果的な活用）

何を学ぶか〈教育課程の編成〉

- コミュニケーション力
（言語能力、情報活用能力）
- 問題発見・解決能力
- 協働する力

どのように学ぶか〈教育課程の実施〉

～生きる力 **学びのその先へ**～

- キャリア教育の改善充実
 - ・ 人間関係形成・社会形成能力の育成【学年部所管】
 - ・ 自己理解・自己管理能力の育成【生徒指導部・地域連携部所管】
 - ・ 課題対応能力の育成【生徒会部所管】
 - ・ キャリアプランニング能力の育成【学年部所管】
 - ・ キャリア・パスポートの利活用【教務部所管】
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実【StuDX 部所管】

【生徒と教師の行動指針】

向き合う・支え合う・認め合う

生徒の実態

- 明るく元気なあいさつが定着し、さわやかな校風が確立されている。
- 基礎的・基本的な学習事項がしっかりと定着している。活用発揮することを通して問題を発見し、解決していく力の育成が求められる。
- 教師との信頼関係を基盤として諸活動を通して、自尊感情が育まれている。部活動への取組も積極的で、各種目において上位入賞を果たしている。
- ▲様々な要素が複合した“居づらさ”を乗り越えていくことを困難に感じ、不登校で前景化している。個に応じた支援が必要である。

実施するために何が必要か〈指導體制の充実、家庭・地域との連携・協働〉

- 校区の課題を解決する小中の連携・一貫した教育活動の推進
- 関係機関との連携・協働による生徒・家庭への支援（不登校の未然防止と早期解決）
- 北海道アクション・プランの目標に迫る働き方改革の推進
 - ・ 目標を共有しベクトルを揃えた組織的な取組による効果的で効率的な学校運営の推進
 - ・ 目標と手段の視点からの「やめる・減らす・変える」の発想での業務の見直し

安全・安心を守る

- 危機管理マニュアルの見直しと実践的な活用
- 学校いじめ防止基本方針に基づく対応の推進
- 教職員研修資料「SOS の出し方に関する教育」を活用した自殺予防教育の推進
- 服務規律の遵守（体罰の禁止、個人情報保護・管理の徹底、交通違反・事故の防止）

地域とともにある学校づくり

- 教育活動の積極的な情報発信
- 地域活動局を中心とした地域貢献
- CSを見据えた学校評議員制度の活用と学校関係評価の実施
- 地域の人材や教育環境の積極的な活用